

ポイント解説のITコンサルタント入門講座
「図解 COBIT4.0解説」

提供: 情報戦略モデル研究所

1

はじめに


この小冊子は、筆者が毎週提供しています“まぐまぐのポイント解説「ITコンサルタント入門講座」の中のテーマ「COBIT4.0」”で提供しています内容を図解を付けて解説しました。本小冊子の原典資料には、「COBIT 4.0」(ITガバナンス協会)を用いています。かなり難解といわれている資料ですが、本小冊子では、この原典をより理解し易くするために、全体のフレームワークと構成内容を図解をもとに平易に解説することに努めました。本小冊子をお読みいただいた後に、原典の詳細資料やデータを有効に活用できるようになることを期待しています。原典の資料構成の流れにもとづいて解説していますので、この原典資料を併用して、この小冊子を読まれることも有効と思われる。

COBIT 語源は、Control OBjectives for Information and related Technology。

ISACAが策定したシステム管理・ガイドラインです。

ISACAとは、Information Systems Audit and Control Association 情報システム監査コントロール協会。情報システム活用の仕組みの策定や情報システムのセキュリティの監査などをする専門家の団体。CISA(国際公認情報システム監査人)試験などを実施している団体です。

注記: 「COBIT 4.0」(ITガバナンス協会)のURLは、巻末の参考資料に記してあります。なお、原典の図をそのまま活用したスライドには出典を明記させていただきました。



「COBIT4.0」目次


第 I 章 COBITエグゼクティブオーバービュー	P3
1. ITガバナンスとは何か	P4
2. ITガバナンスの重点領域	P6
3. COBITの特徴	P7
第 II 章 COBITフレームワーク	P9
1. コントロールフレームワークの必要性	P10
2. COBITの対応	P13
2.1 ビジネス要件との整合性を確保するための手段	P14
2.2 COBITのITプロセス	P23
2.3 ITプロセスの統制	P27
2.4 IT成熟度モデル	P36
3. COBITフレームワークモデル	P48
3.1 COBITフレームワーク全体像	P49
3.2 ビジネス達成目標の展開	P59
4. COBITコアコンポネント	P65
4.1 COBITコアコンポネントの概観	P66
4.2 コアコンポネント記述例	P68
4.3 IT成熟度ギャップ対策	P76
付録 I ビジネス達成目標とIT達成目標の関連付け	P77
付録 I-1 ビジネス達成目標とIT達成目標との対応関係	P78
付録 I-2 IT達成目標とITプロセスの対応関係	P79
付録 I-3 ITプロセスとIT目標のマトリクス	P80
付録 II ITプロセスと他基準の関係	P81

2

COBIT4.0の構成は、2つの章からなっています。

「第1章 COBITエグゼクティブオーバービュー」では、COBITの全体観をITガバナンスとCOBITの関係を鳥瞰しています。COBIT4.0の全体像とその目的を把握することが目的です。

「第2章 COBITフレームワーク」は、COBITの本論です。ITガバナンスを達成するための構築手順と構築要件と項目について整理しています。ITガバナンスのためのCOBITフレームワークの意味、その要件、達成目標の作成手順とそのサンプルまでを提示し、詳述しています。



第 I 章 COBITエグゼクティブオーバービュー

1. ITガバナンスとは何か
2. ITガバナンスの重点領域
3. COBITの特徴

3

第1章の「COBITエグゼクティブオーバービュー」では、COBIT4.0の全体観を述べています。

構成テーマは、「ITガバナンスとは何か」、「ITガバナンスの重点領域」、「COBITの特徴」です。

- 「ITガバナンスとは何か」では、ITガバナンスの定義とCOBITの位置づけを述べ、
- 「ITガバナンスの重点領域」では、ITガバナンスが確立されるための要求事項、
- 「COBITの特徴」では、ITガバナンスを達成するために要求されるCOBITフレームワークの全体機能を整理しています。

1. ITガバナンスとは何か

ITガバナンスとは、

「準拠すべき優れた実践方法(手法)を収集、整理し、これを仕組みとして定着させることによって、企業におけるITが確実にビジネス目標をサポートできるようにするもの」

そのために、

“ITのコントロールに係る何らかのフレームワークが必要”



COBIT

4

COBIT4.0では、ITガバナンスを

「準拠すべき優れた実践方法(手法)を収集、整理し、これを仕組みとして定着させることによって、企業におけるITが確実にビジネス目標をサポートできるようにするもの」と定義しています。

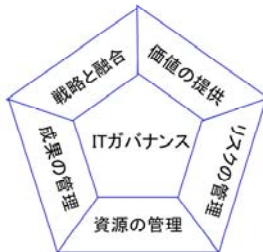
ITガバナンスの最終目標は、売上目標や利益目標のようなビジネス目標に設定されています。このビジネス目標をITによってサポートできる仕組みづくりとその定着をITガバナンスの要件として求めています。ITに係る仕組みでの問題等でビジネス目標達成を阻害することがないような仕組みづくりです。

ITに係る業務には、ITの企画・計画、ITの調達・開発、ITの運用サービス、ITのモニタリング等の業務があります。これらのIT業務を障害なく、効果的に遂行することが必要と云うことです。

つまり、“ITコントロールに係る何らかのフレームワークが必要”となります。

そのフレームワークとしてCOBIT4.0を位置づけています。

2. ITガバナンスの重点領域



◆「戦略との整合」

ビジネス計画とIT計画とを確実に関連付けること、IT価値を定義、保守、検証すること、IT運営を企業運営に整合させることに焦点を当てる。

◆「価値の提供」

提供サイクルを通じて、IT価値を提供する。特に費用を最適化し、ITの本質的な価値を引き出すことで、戦略においてITに期待される便益の創出が確実に行われるようにする。

◆「資源の管理」

重要なIT資源（アプリケーション、情報、インフラストラクチャ、要員）に対する投資の最適化と適切化の管理を対象。中でも主要な問題に関連しているのは、知識とインフラストラクチャの最適化である。

◆「リスクの管理」

経営上層部がリスクを認識すること、企業のリスク傾向を明確に理解すること、(法・規制)遵守要件を理解すること、企業の重大なリスクに関する透明性、およびリスク管理における責務を組織に組み込むこと。

◆「成果の測定」

戦略の実践状況、プロジェクトの完遂状況、資源の使用状況、プロセスの成果、およびサービスの状況を追跡およびモニタリングする。例えば、戦略を従来の会計を超えて測定可能な目標に置き換えるバランススコアカードの使用など。

出典:「COBIT(第4.0版)」(ITガバナンス協会)

5

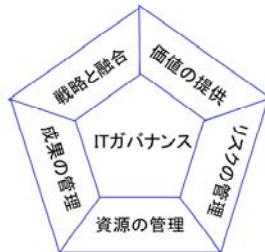
COBITでは、ITガバナンスを実現できている状態を「ITガバナンスの重点領域」として定義しています。その領域として、「戦略との整合」、「価値の提供」、「資源の管理」、「リスクの管理」、「成果の測定」の5点を挙げています。ITガバナンスの要件というわけです。

◆「戦略との整合」とは、経営戦略とIT化戦略は整合性を持って展開されていることを言います。経営戦略からIT戦略へ展開するフレームワークが要求されます。ITガバナンスは、“IT化は経営戦略ありき”が前提で、“ITありき”で進めるものではないことを前提にしています。この考え方の表現を“ITガバナンスはビジネスありき”と表現しています。

◆「価値の提供」とは、提供サイクルを通じて、IT価値を提供する。特に費用を最適化し、ITの本質的な価値を引き出すことで、戦略においてITに期待される便益の創出が確実に行なわれるようになることです。つまり、ITガバナンスはビジネスが前提ですので、投資対効果が最大になるIT戦略を作り出すものでなければならないわけです。

◆「資源の管理」とは、重要なIT資源の管理です。ビジネス目標を達成するためのIT資源に係る投資の最適化と適切な管理を対象とした領域がなければなりません。アプリケーションシステム、マスターファイルやIT設備、ITスキル要因などのIT環境です。中でも主要な問題に関連しているのは、要員の知識とIT技術やIT設備等のインフラストラクチャの最適化が出来る管理プロセスのフレームワークが出来ている状態が必要です。

2. ITガバナンスの重点領域



◆「戦略との整合」

ビジネス計画とIT計画とを確実に関連付けること、IT価値を定義、保守、検証すること、IT運営を企業運営に整合させることに焦点を当てる。

◆「価値の提供」

提供サイクルを通じて、IT価値を提供する。特に費用を最適化し、ITの本質的な価値を引き出すことで、戦略においてITに期待される便益の創出が確実に行われるようにする。

◆「資源の管理」

重要なIT資源（アプリケーション、情報、インフラストラクチャ、要員）に対する投資の最適化と適切化の管理を対象。中でも主要な問題に関連しているのは、知識とインフラストラクチャの最適化である。

◆「リスクの管理」

経営上層部がリスクを認識すること、企業のリスク傾向を明確に理解すること、(法・規制)遵守要件を理解すること、企業の重大なリスクに関する透明性、およびリスク管理における責務を組織に組み込むこと。

◆「成果の測定」

戦略の実践状況、プロジェクトの完遂状況、資源の使用状況、プロセスの成果、およびサービスの状況を追跡およびモニタリングする。例えば、戦略を従来の会計を超えて測定可能な目標に置き換えるバランススコアカードの使用など。

出典:「COBIT(第4.0版)」(ITガバナンス協会)

6

◆「リスクの管理」とは、

経営上層部がリスクを認識し、管理することです。企業のリスク傾向を明確に理解し、遵守要件(法・規制)を理解し、企業の重大なリスクに関する透明性、およびリスク管理における責務を組織に組み込むことが必要となります。

この分野が管理対象領域として組み入れられていることが必要です。

この内容は、内部統制に対して要求される内容と同じです。ITガバナンスは内部統制に準拠し、IT統制が組み込まれていることが求められます。

◆「成果の測定」とは、

戦略の実践状況、プロジェクトの完遂状況、資源の使用状況、プロセスの成果、およびサービスの状況を追跡およびモニタリングすることです。

つまり、IT環境を管理するということは、このIT環境を取り扱う業務であるIT環境の計画、開発・導入、サービスの提供とサポート分野における業務が、ある目標に沿って管理され、維持されねばならないということです。すなわち、モニタリング領域の業務も必要といっていることとなります。

なお、ITガバナンスは、“ビジネスありき”の観点に立っていますので、戦略を従来の会計を超えて測定可能な目標に置き換えるバランススコアカードの使用なども組み込んだモニタリング要件が必要になってきます。

3. COBITの特徴

◆COBITは、

「ドメインとプロセスで構成されるフレームワークで、優れた実践方法(手法)を示し、管理しやすく、論理的な構成でアクティビティを提示するもの。
ただし、実践方法はアクティビティをいかに実践するかより、その実行に対するコントロールに主眼を置く。」

◆COBITは、ITガバナンスの重点領域およびCOSOと関係付けられている

◆COBITのプロセスモデルは、

「計画、構築、実行、およびモニタリングの全てのIT資源領域に沿った形で34のプロセスから構成される。」

◆COBITのITガバナンスサポートは、

「ITガバナンス要件を実現するフレームワークを提供する。」

◆ITガバナンスでは成果の測定が重要

◆COBITのコントロールのフレームワークは、

「COBITはビジネスありきであり、ビジネス目標とIT目標を関連付け、各目標の達成度を測定するための測定基準と成熟度モデルを提供し、それらに関するビジネスプロセスオーナーとITプロセスオーナーの責務を特定する。」のニーズに応えるものである。

出典:「COBIT(第4.0版)」(ITガバナンス協会)

7

ITガバナンスの重点領域をカバーするフレームワークとしてのCOBITが有すべき特徴を述べています。順番に解説します。

◆COBITのフレームワークは、IT化およびIT運用における計画、構築、実行、モニタリングに係るIT業務プロセスを統治するフレームワークであるということです。

◆「COBITは、ITガバナンスの重点領域およびCOSOと関係付けられている」とは、COSOとは、米国SOX法の内部統制のフレームワークを提供している委員会です。COBITは、COSOからIT統制のフレームワークとして推奨されています。ITガバナンスの要件に加えて、IT統制の要件も備えているということです。

◆COBITのプロセスモデルは、IT資源(アプリケーション、情報、インフラストラクチャ、人)を統治する計画、構築、実行、およびモニタリングに係る34のITプロセスから構成されています。

◆COBITのITガバナンスサポートは、以下の要件を実現するフレームワークを提供しています。

- ITとビジネスの統合が採られている
- ITによりビジネスが実現し、最大限の便益が得られている
- IT資源が企業責任の基に使用されている
- ITリスクが適切に管理されている

ITガバナンスの重点領域に対するサポート要件が盛り込まれているということです。

3. COBITの特徴

- ◆COBITは、
「ドメインとプロセスで構成されるフレームワークで、優れた実践方法(手法)を示し、管理しやすく、論理的な構成でアクティビティを提示するもの。
ただし、実践方法はアクティビティをいかに実践するかより、その実行に対するコントロールに主眼を置く。」
- ◆COBITは、ITガバナンスの重点領域およびCOSOと関係付けられている
- ◆COBITのプロセスモデルは、
「計画、構築、実行、およびモニタリングの全てのIT資源領域に沿った形で34のプロセスから構成される。」
- ◆COBITのITガバナンスサポートは、
「ITガバナンス要件を実現するフレームワークを提供する。」
- ◆ITガバナンスでは成果の測定が重要
- ◆COBITのコントロールのフレームワークは、
「COBITはビジネスありきであり、ビジネス目標とIT目標を関連付け、各目標の達成度を測定するための測定基準と成熟度モデルを提供し、それらに関するビジネスプロセスオーナーとITプロセスオーナーの責務を特定する。」のニーズに応えるものである。

出典:「COBIT(第4.0版)」(ITガバナンス協会)

8

◆「ITガバナンスでは成果の測定が重要」とは、COBITフレームワークの中核にあるITプロセスに対するモニタリングでその成果の測定が出来ることを言っています。「プロセスの結果」と「プロセスの性能」の機能提供です。

- 成果の測定とは、ITプロセスが何を提供する必要があるか(プロセスの結果)
- ITプロセスがいかに結果を提供しているか(プロセスの性能)

上記2つの観点で、測定可能な対象物を設定し、モニタリングできることです

◆COBITのコントロールのフレームワークは、以下のニーズに応えるものであることを言っています。

- ビジネス要件との関連付け
- 一般に認められたプロセスモデルによるITアクティビティの体系的整理
- 活用すべき主要なIT資源の識別
- 考慮すべき経営上のコントロール目標の設定

COBITは、このニーズ要件のもとに、「COBITはビジネスありきであり、ビジネス目標とIT目標を関連付け、各目標の達成度を測定するための測定基準と成熟度モデルを提供し、それらに関するビジネスプロセスオーナーとITプロセスオーナーの責務を特定する。」の特徴を有していることとなります。